

## 新農薬の紹介

# 殺ダニ剤アシノナピルの特長

日本曹達株式会社 かん 姜

ちゃん 昌 きよん 慶

## はじめに

アシノナピル (Acynonapyr) は日本曹達株式会社が発明・開発したアザビシクロ骨格を有する新規の殺ダニ剤であり、各種ハダニ類に対して優れた効果を示す。本剤の作用機作は新規と推定しており、既存剤に対して感受性の低下したハダニ類にも優れた効果を示す。本剤は商品名「ダニオーテフロアブル」としてハダニ類の加害が問題となるりんご、いちご等の各種作物で農薬登録を取得している (表-1)。

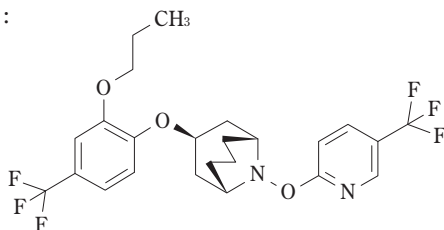
## I 有効成分と性状

一般名：アシノナピル (Acynonapyr)

CAS 登録番号：1332838-17-1

化学名：3-endo-[2-プロポキシ-4-(トリフルオロメチル)フェノキシ]-9-[5-(トリフルオロメチル)-2-ピリジルオキシ]-9-アザビシクロ[3.3.1]ノナン

構造式：



分子式：C<sub>24</sub>H<sub>26</sub>F<sub>6</sub>N<sub>2</sub>O<sub>3</sub>

分子量：504.47

水溶解度：0.889 μg/l (20℃)

オクタノール/水分配係数 (LogPoW)：6.5 (25℃)

融点：77.2~78.8℃

蒸気圧：< 8.3 × 10<sup>-8</sup> Pa (30℃)

## II 安全性

### 1 人畜毒性 (原体)

急性経口：LD<sub>50</sub> > 2,000 mg/kg 体重 (ラット ♀, ♂)

急性経皮：LD<sub>50</sub> > 2,000 mg/kg 体重 (ラット ♀, ♂)

急性吸入：LD<sub>50</sub> > 4.79 mg/l/4 h (ラット ♀, ♂)

皮膚腐食性および皮膚刺激性：刺激性なし (ウサギ)

眼に対する重篤な損傷または刺激性：刺激性なし (ウサギ)

皮膚感作性：感作性なし (モルモット)

### 2 水生生物への影響 (原体)

魚類急性毒性 ニジマス：LC<sub>50</sub> > 21 μg/l (96 hr)

ミジンコ類急性遊泳阻害 オオミジンコ：EC<sub>50</sub> = 28 μg/l (48 hr)

藻類生長阻害 ムレミカヅキモ：ErC<sub>50</sub> > 2.8 μg/l (72 hr)

### 3 有用昆虫および天敵に対する影響 (原体)

セイヨウミツバチをはじめとする各種有用昆虫や天敵に対して影響が少ないことが確認されている (表-2)。

表-1 ダニオーテフロアブルの登録内容 (2020年10月14日現在)

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (l/10 a)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アシノナピルを含む農薬の総使用回数
かんきつ	ミカンハダニ	2,000~3,000	200~700	収穫前日まで	1回	散布	1回
りんご	ハダニ類	1,000~2,000					
なし おうとう 小粒核果類		2,000	2回以内		2回以内		
いちご なす すいか		100~300					

Characteristics of Novel Acaricide Acynonapyr. By ChangKyung KANG

(キーワード：アシノナピル, ダニオーテ, NA-89, ハダニ, 日本曹達)